

fieldwork

海の面影が残る街 浦和

18N1138 八代加伊

## 敷地情報

- 埼玉県さいたま市浦和区
- 江戸時代になると中山道の宿場町として浦和宿が発達した。
- 寺社仏閣や県庁、裁判所などの中央機関が密集している。



# 疑問(1) 坂が多い





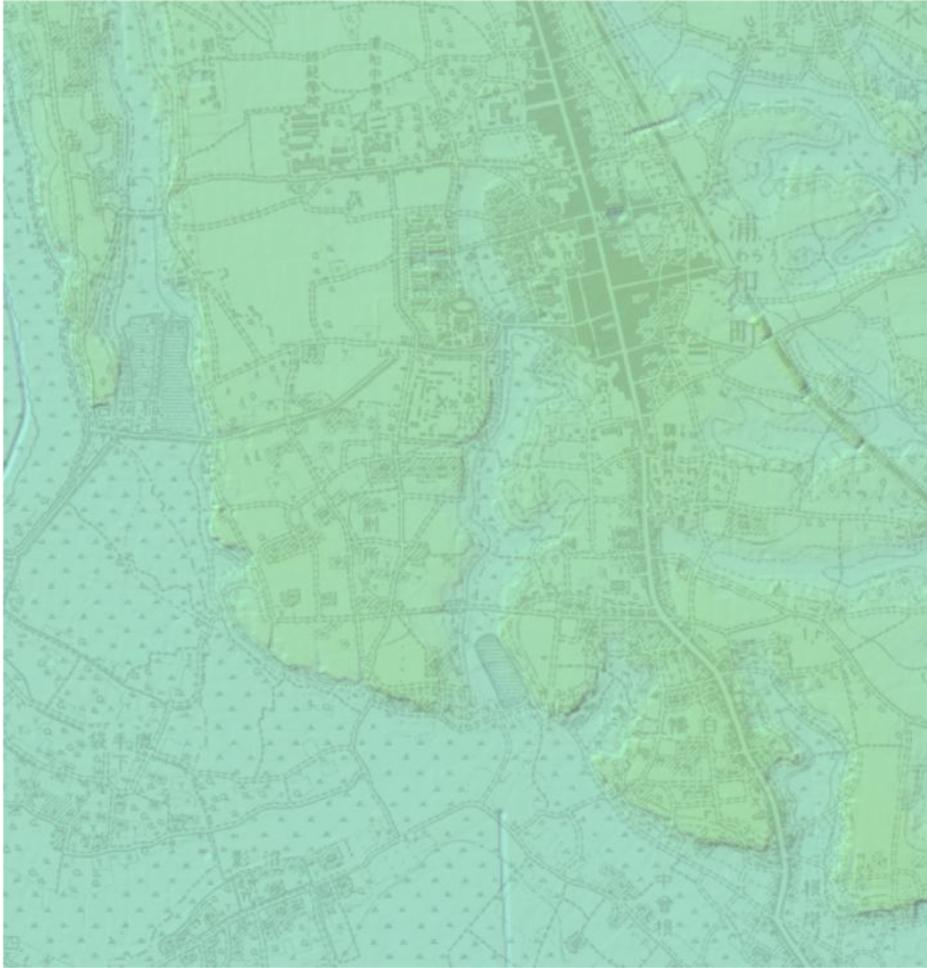


## 疑問(2) 海や大河はないのに『浦和』という地名

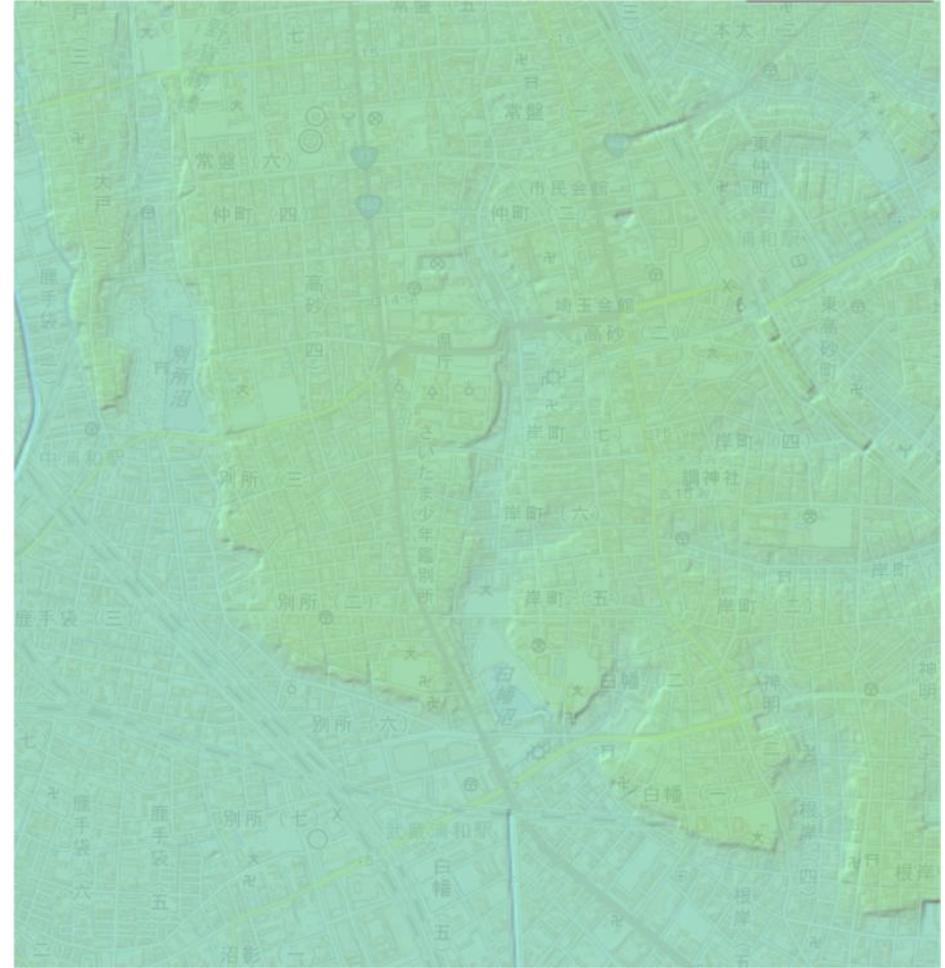


cf. <https://www.nomu.com/machikara/2520/>

# 地形の変化



[1896 - 1909]



[現在]

# 縄文時代の海域

約1万2000年前 最終氷河期が終わる



温暖化による海面上昇

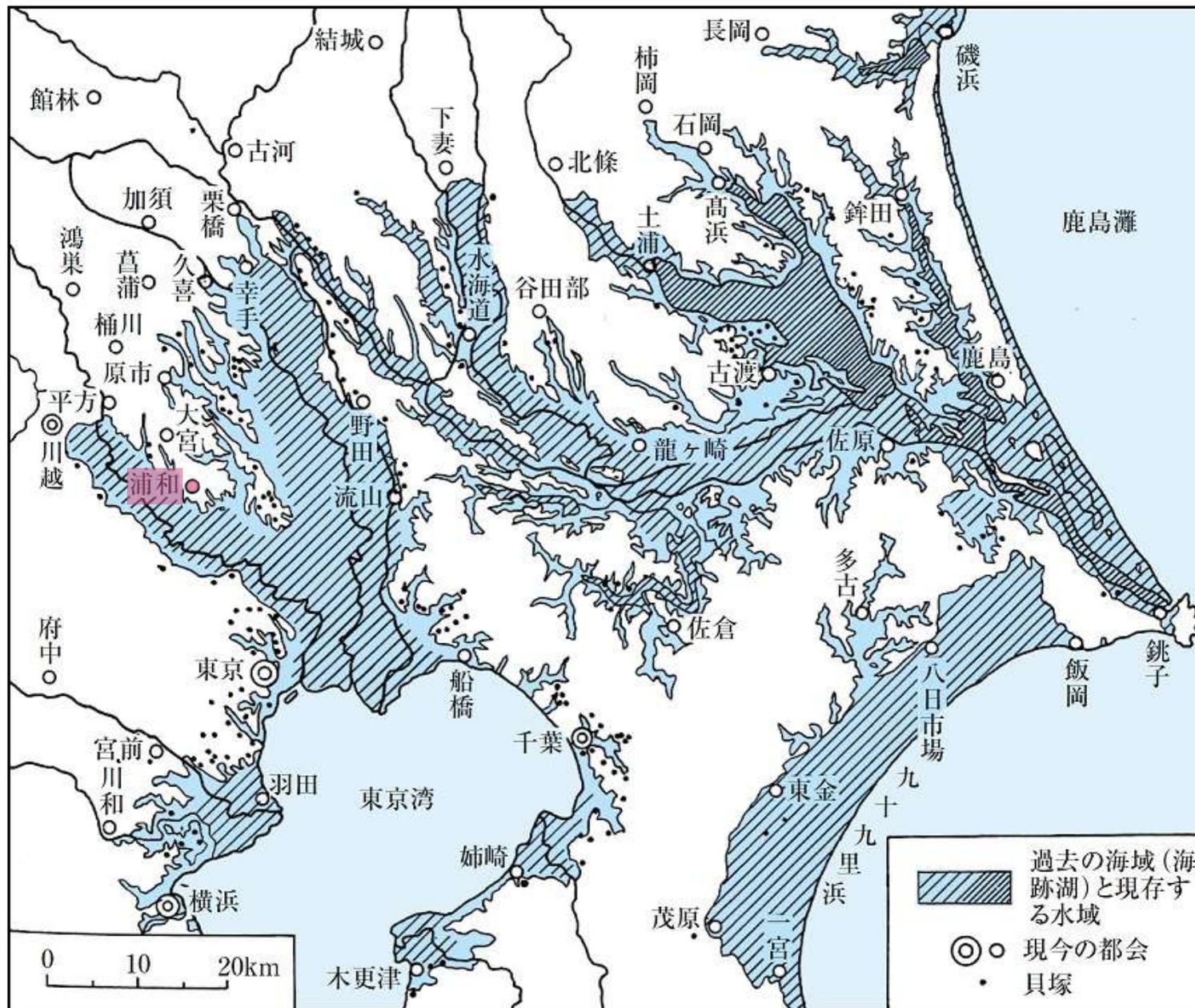


約6000年前

海水面が内陸へ入り込む

(縄文時代前期)

〈縄文海進〉が起きた





## 地名の由来

【浦】の漢字の意味

海や川などのほとり。水辺。浜。

海や湖などが陸地に入り込んでいるところ。

→ 縄文時代、付近一帯が海であったり曲がりくねった河川に囲まれていたことに由来

また、貝塚が残っていることから海があったことがわかる。



# 寺社仏閣、各機関のマッピング



- 寺
- 神社
- 県庁
- 裁判所

## 考察

氷河期の後、浦和は海辺の土地であった。現在も残る大きい高低差のある土地や沼、貝塚はその名残であると考えられる。

また、古い寺社はマッピングしてみるとどれも坂の上に位置していることがわかった。寺社を建てる時に立地の標高を考慮して建てたのではないかと思う。